

まちづくり情報

200年 9月 10日
NO.10

発行・責任者
十和田市商店街
振興組合連合会
理事長 田中庸治

南商店街
振興組合
研修視察

「よ市」四半世紀にわたる風物詩

8月18～19日南商店街振では隔年実施の研修視察を員外参加を含む1名で実施いたしました。研修の目玉は、盛岡市材木町商店街(振)で主催している路上買物市「材木町よ市」でした。途中バイパス開通後の商店街視察として二戸市を車上見学し、今秋供用開始する十和田4号線バイパス開通後における商店街の今後を想像しました。条件が違うかもしれませんが、今より更に人通りも少なくなるのではないかと不安になります。



「ステラモンテ」での食事

盛岡に着いて、観光名所となっている清酒工場では特別メニューで迎えられ、地ビールを楽しみながらレストランで食事をとりました。

「よ市」のオープンに合わせ同所をあとにし、材木町商店街では街路延長430mに100以上の露店が並ぶ人込みの中を一巡して事務所を訪問しました。事務局長より説明を受けたところによれば、「よ市」は昭和49年に始まり、今日まで28年間4月～11月迄の8ヶ月間、毎週土曜日午後3時から7時まで開催されています。場所代は無料ですが、会費月額2,500円～6,000円を出店者から集めているそうです。最も多いのは3,000円で、1回の場所代に換算すると750円に相当します。集まった会費は年3回のよ市イベントで全額還元されているとのこと。そのほか、実行委員会では毎回3～4人が交代で奉仕し、コスト削減を図っていることから、出店者に対し販売価格を安くするよう要請しているそうです。材木町商店街振が法人化した昭和40年代前半



にぎわう「よ市」の様子

は国道廃止と他商店街に押され気味でした。危機感を募らせていた若手のグループが、庶民感覚を前面に大型店や他商店街との差別化を図ろうと始めたのが「よ市」でした。この「よ市」を継続することにより、消費者や住民からの信頼を得、ハート整備として宮沢賢司の世界を再現した「イーハトーブアベニュー材木町」が誕生した、と話されていました。最後に28年間続いたのは、地域の人達にささえられ継続してきたことが「力」となったと、事務局長は力説されておりました。

帰りに再び「よ市」をのぞくとなかなかの賑わいで農家の産直販売を下駄履きで買物する風景が大変印象深く残りました。

住民や消費者そして商業者と息の合った「よ市」は、まちづくりのなかで地域社会に欠かせないコミュニ



材木町商店街(振)事務局長と

ティ商店街として最も大切なことと感銘を受け、宿泊地の繋へと車を進めました。

(小笠原 記)

イエローキャップ レポート

建築士会ワークショップに参加して

7月14日に開催された建築士会主催の「まちづくりワークショップ」を先月号の当コーナーでレポートしましたが、その中で参加者から出された意見はどれも興味深いものだったのでご紹介します。参加者は市内から集まった主婦9名と女子高生12名でした。



ワークショップの様子

まずは、「どんなお店が好きか」という質問で、主婦は、衣・食・住に分かれたのに対し、女子高生の答えは大多数が衣服・雑貨物店、少数派は書店・CDショップでした。また、建築士の方々(全員男性)は飲み屋・カラオケなど買物より先飲食のほうに関心が強いようで、主婦・女子高生との傾向の違いがおもしろいと思いました。主婦や女子高生の買物に出かける時の気持ちとして単に目的の品物を買うだけでなく、コミュニケーションを求める娯楽として買物を楽しむ気持ちが強いようです。

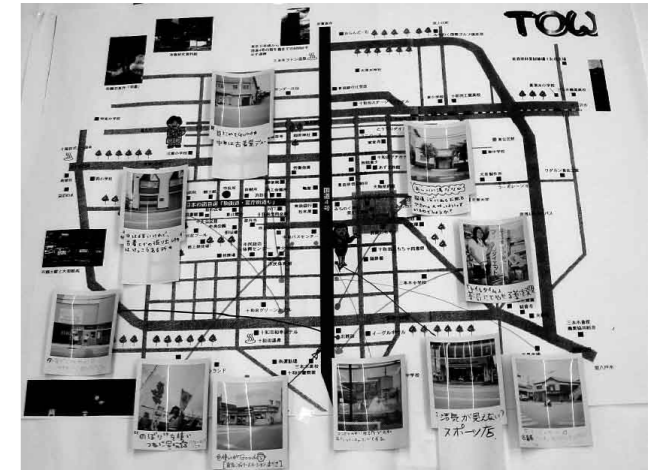
次に、参加者全員、街へ出て、お気に入りの店、興味を引いた店などを取材しました。主婦達は、ふだん商店街をあまり利用せず、車で素通りするだけと話す人が多く、アーケードを歩くのは松木屋閉店以来初という人さえいました。商店街で主婦達が特に関心を持ったお店は、おかずやさん、輸入物や全国の珍しい食料品なども扱う酒店、露店販売に近い八百屋さんなどの食料品関係と手作り小物のお店でした。「いずれもこんな店だったとは知らなかった。それに商店街にいろいろな店があることに驚いた。」との感想でした。



GRAND BLEU
①店の雰囲気も良く、入りやすい。
if (イフ)
②おいしい食べ物がいっぱい!!
とくに、10F 最高の
③1階の化粧品のお店はおうちで買っても良かった。店員もやさしい。

高校生のコメント

一方、女子高生の方は、衣料・雑貨小物・化粧品関連や軽食のお店に関心が高く、値段は高いけどかわいい小物がたくさんあるとか、おいしい食べ物がいっぱいなど、通学途中のごひいきや憧れの店など、ふだんからこれらの店に関心を持ち、利用していることがよく分かりました。店に要望することで一番意見が多かったのが、「入りやすく出やすい店」でした。また、価格の安さより直行バス、託児・休憩所、広い駐車場などを買物の条件に挙げていました。これらの問題は現在の稲生町のお店にとってはなかなか解決できない部分ですが、お客さまを失ってしまった理由の一つとしてやはりこれらの問題は大きいのかもしれないと改めて思いました。また、十和田に欲しい店として、女子高生は買物だけでなく楽しく時間を過ごせるような娯楽施設やショッピングセンター、主婦は日曜の夜も食事ができるレストランなど、十和田市の消費者は娯楽を兼ねて買物を楽しみたい傾向が今回のワークショップでも浮き彫りにされたと思います。



高校生グループの市街地取材マップ

一方、女子高生の方は、衣料・雑貨小物・化粧品関連や軽食のお店に関心が高く、値段は高いけどかわいい小物がたくさんあるとか、おいしい食べ物がいっぱいなど、通学途中のごひいきや憧れの店など、ふだんからこれらの店に関心を持ち、利用していることがよく分かりました。

店に要望することで一番意見が多かったのが、「入りやすく出やすい店」でした。また、価格の安さより直行バス、託児・休憩所、広い駐車場などを買物の条件に挙げていました。これらの問題は現在の稲生町のお店にとってはなかなか解決できない部分ですが、お客さまを失ってしまった理由の一つとしてやはりこれらの問題は大きいのかもしれないと改めて思いました。

また、十和田に欲しい店として、女子高生は買物だけでなく楽しく時間を過ごせるような娯楽施設やショッピングセンター、主婦は日曜の夜も食事ができるレストランなど、十和田市の消費者は娯楽を兼ねて買物を楽しみたい傾向が今回のワークショップでも浮き彫りにされたと思います。

商店街や個店の売り出し、イベントなどがありましたら、どしどしサポートセンターまでお寄せ下さい。皆さんの情報お待ちしております。

TEL FAX 25-6885
e-mail yellowcap@mx5.et.tiki.ne.jp